

採用施設一覧 (◎は基幹施設、○は連携施設)

- ◎都立広尾病院
- ◎都立墨東病院

- ◎都立多摩総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 都立広尾病院 (基幹施設)

東京都立広尾病院 救急科 東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急科 後藤 英昭 プログラム研修期間：3年
 連携施設病院：杏林大学医学部付属病院 / 大分県立病院 / 島しょ等

救急医療では医学的緊急性への対応、すなわち、手遅れとなる前に診療を開始することが重要です。ところが、救急患者が医療にアクセスした段階では、緊急性や罹患臓器も不明なため、どのような緊急性にも対応できる専門医が必要となります。そのためには、救急搬送患者を中心に診療し、急病、外傷、中毒など原因や罹患臓器の種類に関わらず、すべての緊急性に対応する救急科専門医が、国民にとって重要な役割を果たします。本研修プログラムの目的は、「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」救急科専門医を育成することです。救急科領域の専攻医は、急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを修得することができます。内因性疾患で複数臓器の機能が急速に重篤化する場合や、外傷や中毒など外因性疾患では、初期治療から継続して根本治療や集中治療でも、中心的役割を担うことが可能となります。さらに、地域ベースの救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、さらに災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事を担うことも可能となります。基幹研修施設の都立広尾病院は、東京都都市部の救命センターとしての機能の他、年間200件を超える島嶼からのヘリ・航空機搬送の患者受け入れや災害医療等、様々な役割を担っています。本プログラムを通して、緊急性や重症度に依らない初期診療、これに引き続く根本治療と集中治療、地域医療体制整備、さらに災害医療を含む、救急医療の中心となる救急科専門医の育成を目指します。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	救急診療・集中治療・MC・災害医療											
2年次	救急診療・集中治療・MC・災害医療（杏林大学医学部付属病院）、救急診療・地域医療（大分県立病院）											
3年次	過疎地域救急診療（選択研修・島嶼医療）						救急診療・集中治療・MC・災害医療					

● 都立墨東病院 (基幹施設)

東京都立墨東病院施設群救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救命救急センター 濱邊 祐一 プログラム研修期間：3年
 連携施設病院：東京大学医学部付属病院 / 東京通信病院

救急医には、目の前の患者の緊急度と重症度を判断し即座に対応する「緊急性」、疾病・外傷などの原因や罹患・損傷臓器の種類を問わず対応する「多様性」、加えて、様々な背景の患者の診療に対応する「社会性」が求められます。これらをたゆまず確実に実践していくことが、救急医療を支えていくための礎となる救急科専門医のモットー（すすむべき道・信条）です。墨東病院はERと独立型の高度救命センターを有し、walk-in患者から生命の危機が切迫した患者まで、幅広い救急診療に携わることができ、救急医の研修に適した環境にあります。当プログラムでは、都内有数の症例数を誇る当院での研修を中心に、東京大学附属病院、通信病院と連携を組み、近接した地域内で研修を全うすることが可能です。また、研修を通して区東部医療圏の救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事も学びます。日常の診療の他に学

術的な活動も重視し、積極的に学会発表、論文発表を行っております。我々とともに地域の救急医療の更なる発展を目指して研修いただける方をお待ちしています。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
研修コース モデル	1年次	救命救急センター						ER					
	2年次	東京大学医学部附属病院			東京通信病院			救命救急センター					
	3年次	連携施設						ER					

● 都立多摩総合医療センター（基幹施設）

東京都立多摩総合医療センター施設群救急科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急科 清水 敬樹 プログラム研修期間：3年

連携施設病院：小児総合

帝京大学病院（東京都） / 佐久総合病院（長野県） / 日本赤十字社医療センター（東京都） / 浦添総合病院（沖縄県） / 秋田赤十字病院（秋田県） / 西南医療センター（茨城県） / NTT 関東病院（東京都） / 昭和大学病院（東京都）

本研修プログラムを修了した救急科専門医は、急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるための臨床能力を習得することができるようになります。まずは実際に見学しにいらしてください。黒い術衣をまとったスタッフがお待ちしております。

【救命初療から集学的治療】

当院救急科の特徴は、初療室から入室後に重症患者であれば救急科が主科となり集学的治療へと速やかに移行可能なことです。集中治療医学に関する知識・経験が豊富なスタッフからのフィードバックが可能です。

【チーム医療】

「チーム医療」が現在の救急・集中治療分野におけるキーワードになっています。「チーム医療」を十分に意識して多くのスタッフと協調性を持ちながら医療を継続していける救急科専攻医を目指してください。救急科専門医の取得は当然ですが自分のサブスペシャリティを探す3年間とも言えます。

【ドクターヘリ研修】

東京都のような都市型救命救急センターでは現時点ではドクターヘリなどは導入されていません。ドクターヘリが必要不可欠で導入・運営している地域で一定期間研修することで医師の患者さんへの早期接触、早期治療開始の重要性を認知して頂ければと思います。

【ECMO】

重症呼吸不全に対する呼吸補助目的の対外循環装置を使用したW-ECMOの管理に関して、当院では世界基準での管理を確立しています。装置、回路、管理方法など欧米のノウハウを導入し、他院へ出向いてのカニュレーション、搬送など本邦で最高レベルのECMO管理の研修が可能です。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
研修コース モデル	1年次	多摩総合医療センター						連携施設					
	2年次	多摩総合医療センター									連携施設		
	3年次	連携施設			多摩総合医療センター								